

【ひざの健康と再生医療】～手術だけじゃない 最先端の治療～
について、約300人の受講者に松田院長が講演しました！



今週の花言葉

紫式部

愛され上手

カーネーション

気品

アナスタシア

真実

松田院長からあなたへ 耳より情報

■市民公開講座を開催しました！

11日の日曜日に熊谷市立文化センターで市民公開講座を開催しました。【ひざの健康と再生医療】～手術だけじゃない 最先端の治療～というタイトルで膝の現状の治療から最先端の再生医療まで話をさせていただきました。実際に再生医療を体験した茂木さんも登壇して下さり、大盛況でした。

■当院で可能な再生医療

厚生労働省の認可を受け、当院では3種類の再生医療が可能です。

1) PRP (多血小板血漿) 療法

自分の血液に含まれる血小板の成長因子が持つ組織修復能力を利用し、私たちに本来備わっている「治る力」を高め、治癒を目指す再生医療です。

2) APS (自己タンパク質溶液) 療法

PRP からさらに抗炎症物質と成長因子を濃縮した APS を約 2.5ml 抽出します。APS は抗炎症作用により関節内の炎症物質と抗炎症物質の不均衡を整えます。

3) PFC (血小板由来因子濃縮物) 療法

自己修復機能を促す血小板由来の成長因子を高濃度にして関節内へ注入します。

■再生医療の効果

即効性はありませんが、1週間から6か月で組織の修復が起こります。自分自身の組織を修復する治療なので、長期間にわたって治療効果が認められます。

★院長よりメッセージ

注射や薬で症状の改善が見られない場合や事情で手術を受けられない場合には再生医療を考えてみては如何でしょうか。医師やスタッフまでお声がけ下さい♪

2025年には高齢者の5人に1人が 認知症になる見込み



認知症画像診断支援 VSRAD

認知症は特別な人に起こる特別な出来事ではなく、年齢を重ねれば、どなたに起こりうる、身近な病気ともいえます。厚生労働省の認知症高齢者の現状（平成24年）では、全国の65歳以上の高齢者について、認知症数は全体の15%、約462万人と推計、認知症の前段階とされる**軽度認知障害 MCI（正常でもない、認知症でもない（正常と認知症の間）状態の者）**は全体13%、400万人と推計されます。

今後超高齢化社会の日本では、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、認知症患者数は700万人前後に達し、65歳以上の**高齢者の約5人に1人**を占める可能性があります。

『萎縮予防』は『気になり始めたら』

① 早期診断・早期対応

今のところ、アルツハイマー型認知症で失われた記憶能力や精神機能を回復する治療法はありませんが、適切な治療（飲み薬）によって症状の進行を遅らせることができます。

大切なことは早期に認知症を診断し早期対応することです。

定期的な検査で脳の状態を確認し、年齢より脳が萎縮し始めたら、萎縮の進行を遅らせる薬を服用することが大切です。一度、萎縮した脳は元には戻ることはありません。人生100年時代を迎え、**脳の萎縮を予防することも、健康管理の一部**になります。

認知症の進行を遅らせ、ご本人らしく生きることのできる時間を長くし、ご家族・介護者の負担を軽減する。それが健康寿命延伸の今の時代に必要なことです。



② 早期アルツハイマー型認知症診断支援システム

当院では認知症の早期診断として今注目されているブイエスラド（VSRAD）を導入しました。

このシステムは50歳以上のかた皆様が対象になります。若年性認知症などにも対応いたします。



次のような症状のある方は、特にブイエスラド（VSRAD）をお勧めします。

・ もの忘れが気になる方、50歳以上の方

このような経験をされている方はいらっしゃいますか？

- 同じ話を繰り返す。
- 理由もないのに気がふさぐ
- 知っている人の名前が思い出せない。
- 身だしなみに無関心になる
- 物のしまい場所を忘れる
- 外出がおっくうになる
- 漢字を忘れる
- 財布など物が見当たらないことを他人
- 今しようとしていることを忘れる
- のせいにする

●**脳ドックのオプション検査**ブイエスラド（VSRAD）は脳ドックの追加検査となります。ご希望の方は各市町村別の脳ドック冊子を受付にお出しください。